

2026年度
国立看護大学校 研究課程部
看護学研究科

後期課程（博士課程相当）

学 生 募 集 要 項

国立看護大学校

**国立看護大学校 研究課程部 看護学研究科 後期課程（博士課程相当）
学生募集要項**

1 募集人員

専門分野		募集人員
政策的機能看護学	国際看護学 看護教育学 看護情報・管理学 看護管理学 看護情報学 基礎・クリティカルケア看護学	3名
先駆的臨床看護学	成人看護学 精神看護学 成育看護学 小児看護学 母性看護学・助産学 長寿看護学 老年看護学 地域・在宅看護学 感染管理看護学	

2 事前面談

出願を希望する者は、出願前に必ず志望する専門分野の研究指導教員と面談してください。
 なお、出願資格審査が必要な場合は、出願資格審査書類提出前に面談してください。
 詳細は「16 問い合わせ先」へお問い合わせください。

3 出願資格

保健師、助産師又は看護師のいずれかの免許を有し、次の(1)～(6)の一つに該当する者とする。

- (1) 本学研究課程部看護学研究科前期課程（修士課程相当）を修了した者又は2026年3月修了見込みの者
- (2) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条の規定に基づき、修士の学位又は専門職学位を授与された者又は2026年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者又は2026年3月までに授与される見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者又は2026年3月までに授与される見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学院相当として文部科学大臣に指定された外国の学校を修了し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者又は2026年3月までに授与される見込みの者
- (6) 前各号に掲げる者のほか、本学研究課程部において、個別の出願資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、2026年3月31日までに24歳に達する者

4 出願資格審査

3の出願資格(6)により出願しようとする者は、事前に個別の出願資格審査を受けてください。
 なお、過去に本学後期課程の出願資格審査認定を受けて承認された者については出願資格審査を

必要としません。

(1) 審査書類

①	出願資格審査願	本学指定の用紙（様式D－資格審査1）に、必要事項を記入してください。
②	出願資格審査調書	本学指定の用紙（様式D－資格審査2）に、必要事項を記入してください。
③	卒業証明書	最終出身学校の卒業証明書を提出してください。 ※保健師・助産師養成機関、教員養成機関、認定看護師養成機関等を卒業又は修了している場合は、その養成機関等の証明書、それ以外の者は、看護師養成機関の卒業証明書を提出してください。
④	免許証の写し	保健師、助産師又は看護師のいずれかの免許証の写しを提出してください。
⑤	研究業績等目録	本学指定の用紙（様式D－資格審査3）に、必要事項を記入してください。 ア 論文：著者名、題名、掲載誌、巻、頁、年を明記する。 ※保健師、助産師、看護師の実務を通して作成された看護に関する論文一つを選定し、論文の写しとその要旨（様式D－資格審査4）を添付すること。論文は単著のものとするが、共著の場合は、申請者が筆頭著者のものに限る。 イ 著書：著者名、書名、題名、出版社、発行年を明記する。 ウ 学会等発表：発表者名、演題名、学会名、場所、年を明記する。 エ 社会活動の概要：専門職としての社会活動について明記する。
⑥	研究計画書	本学指定の用紙（様式D－資格審査5）に、必要事項を記入してください。
⑦	審査結果通知用返信封筒	定形封筒（長形3号）に郵便番号、住所、氏名を明記し、460円分の切手（簡易書留料金含む）を貼付したものを同封してください。

※ 審査書類のうち本学指定の用紙については、本学ホームページからダウンロードして使用してください。
https://www.ncn.ac.jp/examination/grad/032/023_guide_02.html

(2) 出願資格審査書類提出期間

2025年8月1日（金）～8月12日（火）必着

(3) 出願資格審査結果の通知期日

2025年8月21日（木）発送

(4) 出願資格審査書類の提出先

国立看護大学校事務部学務課（研究課程部入試担当）

〒204-8575 東京都清瀬市梅園1-2-1

※封書の表書きに「出願資格審査書類在中」と朱書してください。

5 出願手続

(1) 出願期間及び方法

2025年8月22日（金）～9月1日（月）必着

出願は、郵送のみ（書留速達郵便）とし、出願期間内に本学事務部学務課あて送付してください。

※封書の表書きに「後期課程入学出願書類在中」と朱書してください。

(2) 出願書類

出願者は、次に掲げる①～④の書類を出願期間内に提出してください。

①	出願票	本学指定の用紙（様式D－出願書類1）に、必要事項を記入してください。
②	受験票	本学指定の用紙（様式D－出願書類2）に、必要事項を記入してください。
③	写真票	
④	成績証明書	出身大学・大学院等の成績証明書（厳封されたもの）を提出してください。 出願資格（1）～（5） 大学院修士課程の成績証明書

		出願資格（６）学部成績証明書 大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された場合は、出身学校も含めたそれ以降の全成績（単位修得証明書）も併せて提出してください。 ただし、本学の研究課程部・前期課程修了が最終学歴となる場合は、成績証明書の発行願（証明書発行願）を同封することによって、これに代わるものとします。
⑤	修士課程（博士前期課程）修了（見込み）証明書（又は出願資格審査結果通知書）、学位記の写し	出身大学院の学長等が発行したものを提出してください。 修士の修了（見込み）証明書、学位記の写しを提出してください。ただし、本学の研究課程部・前期課程修了が最終学歴となる場合は、学位記の写しをもってこれに代わるものとします（学位証明書は不要です）。 なお、本学の出願資格審査（後期課程）の認定を受けた者は、出願資格審査結果通知書の写しを提出してください。
⑥	学位（修士）論文等	修士の学位を有する者は、学位論文の写しとその要旨（様式D－出願書類3）を提出してください。なお、修了見込みの者は、学位論文として提出予定の論文及びその要旨を提出してください。 それ以外の者は論文一つを選びその写しと要旨〔本学指定の用紙（様式D－出願書類3）〕を提出してください。なお、出願資格審査を受審する際に、提出した論文の写し及びその要旨と同一のものである場合は、提出は必要ありません。
⑦	研究計画書	本学指定の用紙（様式D－出願書類4）に、必要事項を記入してください。 なお、出願資格審査を受審する際に、研究計画書を提出している場合は、提出は不要ですが、修正して再提出してもかまいません。
⑧	検定料 30,000円	振込期間 2025年8月22日（金）～9月1日（月） 本学指定の振込依頼書を使用して納付してください。銀行窓口での振込（電信扱い）に限ります。ただし、ゆうちょ銀行・郵便局は利用できません。また、ATM（現金自動預払機）は利用できません。納付後、振込受付証明書（お客さま用）を本学指定の用紙（様式D－出願書類5）に添付し同封してください。取扱金融機関の出納印をもって本学の領収とします。領収書はあらためて発行しませんので振込金（兼手数料）受取書は大切に保管してください。納入された検定料は、いかなる理由があっても返還しません。
⑨	国籍等、在留資格及び在留期間を明示した住民票の写し ※日本国籍を有しない者のみ	日本国籍を有しない者は、市区町村長が交付する国籍等、在留資格及び在留期間を明示した「住民票の写し」を提出してください。 なお、出願書類提出前に「16 問い合わせ先」に連絡し、指示に従ってください。
⑩	受験票送付用封筒	定形封筒（長形3号）に送付先の郵便番号、住所、氏名を明記し、表書きに「受験票在中」と朱書して760円分（速達・簡易書留料金含む）の切手を貼付してください。
⑪	あて名票	本学指定の用紙に、合格通知書等送付先の郵便番号、住所、氏名を明記してください。

※ 出願書類のうち本学指定の用紙については、本学ホームページからダウンロードして使用してください。
https://www.ncn.ac.jp/examination/grad/030/023_guide.html

※ 国立看護大学校の研究課程部前期課程修了が最終学歴となる場合は、④の成績証明書・単位修得証明書、⑤のうち修了証明書について、研究課程部入試出願予定であることを記載した「証明書発行願」の提出をもって受理します（志願票等に同封いただく必要はありませんので、証明書申請時の返送用封筒は不要です）
 申請様式・提出方法：<https://www.ncn.ac.jp/for/040/010/certificate.html>

（３）出願上の注意

①提出書類に不備がある場合は受理しません。

- ②受理した出願書類は、いかなる理由があっても返還しません。
- ③出願書類を受理した場合は、受験番号を付した受験票及び案内図を出願者に受験票送付用封筒により返送します。
- ④2025年9月10日（水）午前中までに受験票が到着しない場合は、直ちに本学事務部学務課（研究課程部入試担当）までお問い合わせください。

6 選抜方法

選抜は、学力検査、口述試験及び出願書類により行います。ただし、国立看護大学校 研究課程部（前期課程）を2026年3月に修了見込みで進学を希望する者については、別途選考します。

（1）学力検査

- ①英 語 （英和辞書を貸与します）
- ②専門科目 （志望分野に関連する問題）

（2）口述試験

研究計画についてのプレゼンテーション（15分程度）と質疑応答により行います。

7 試験日時及び試験会場

（1）試験期日及び試験時間

- ①学力検査 2025年9月17日（水）
 - a 英 語 9時20分～10時20分
 - b 専門科目 10時40分～11時40分
 - ②口述試験 13時00分～
- ※①②全て受験しなければ失格となります。
ただし、出願資格（1）のうち本学研究課程部看護学研究科前期課程（修士課程相当）を修了した者は、①学力検査 a の受験が免除となります。

（2）試験会場

国立看護大学校（東京都清瀬市梅園1-2-1）

※受験票は入学手続や個人別成績開示請求の際に必要ですので大切に保管しておいてください。

8 合格発表

2025年9月24日（水）14時
本人あて郵送により試験結果を通知します。
なお、インターネットのホームページ上にも同時刻に合格者の受験番号を掲示します。

9 入学手続

（1）期間

2025年9月25日（木）～2025年10月3日（金）

（2）場所

国立看護大学校事務部学務課（研究課程部入試担当）
〒204-8575 東京都清瀬市梅園1-2-1

（3）必要書類

- ①受験票
- ②出願時において2026年3月修了見込みにより受験した者は2026年3月31日（火）までに修了証明書を提出してください。

(4) 納付金

入学料 282,000円

本学指定の振込依頼書(合格者宛送付)を使用して納付してください。

(5) 留意事項

- ①本学が指定した期間中に入学手続きを行わなかった者は、入学辞退者として取り扱います。
ただし、やむを得ない事情等により、指定した期間に手続きができない場合で本学の許可を得たときはこの限りではありません。
- ②入学手続終了後、本学研究課程部前期課程又は大学院等を修了できない等の事由が生じた場合は、入学許可を取り消すことがあります。
- ③納入された入学料は、返還しません。
- ④提出書類、その他詳細については、合格通知とともに合格者本人あてに郵送します。

10 授業料等

- | | |
|---------|---|
| (1) 授業料 | 年額 535,800円(予定)
授業料は、入学後に前期・後期に分けて徴収します。
また、授業料は在学中に改定される場合があります。 |
| (2) その他 | 施設利用料を、別途、徴収します。 |

11 修了要件

3年以上在学して、授業科目を15単位以上修得し、特別研究論文の審査に合格すること。

12 学位

大学改革支援・学位授与機構に申請し、審査及び試験に合格すると、「博士(看護学)」の学位が授与されます。

13 長期履修制度

常勤で働きながら学ぶ場合、出産・育児、介護等の事情により就学に制限がある者、大規模災害及びこれに準じる事象により履修若しくは特別研究の遂行が困難な状況であると認められる者、その他長期履修が必要となる相当の理由がある者は、この長期履修制度を利用できます。長期履修制度とは、履修期間を前期課程(修士課程相当、修業年限2年)は3年から4年に、後期課程(博士課程相当、修業年限3年)は4年から6年にすることについて、入学時に申請し認められると利用できる制度です。長期履修期間を通して納める授業料は、通常の修業年限の場合と同額です。詳細は事務部学務課(研究課程部入試担当)までお問い合わせください。

14 個人別成績の開示

本学では、研究課程部看護学研究科後期課程入学者選抜試験に係る個人別成績に関して、受験者本人(ただし、入学者は除く)から開示の請求があった場合に限り、次により英語及び専門科目の得点について開示します。

(1) 請求者

受験者本人に限ります。合格した者及び指定されたすべての科目を受験しなかった等失格となった者は、開示対象とはなりません。

(2) 請求期間

2026年4月1日(水)から5月29日(金)(土日祝日は除く)

(3) 請求方法

①窓口

次の(4)請求窓口にて国立看護大学校研究課程部看護学研究科入学者選抜試験に係る個

人別成績開示請求書、受験票、宛先を明記した返信用封筒〔定形封筒（長形3号）460円分の切手（簡易書留料金含む）貼付〕を提出してください。

②郵送

封書の表書きに「個人別成績開示請求」と朱書き、国立看護大学校研究課程部看護学研究科入学者選抜試験に係る個人別成績開示請求書、受験票、宛先を明記した返信用封筒〔定形封筒（長形3号）460円分の切手（簡易書留料金含む）貼付〕を下記の問い合わせ先へ郵送してください（5月29日消印有効）。

（4）請求窓口

国立看護大学校事務部学務課

（5）開示方法

国立看護大学校研究課程部看護学研究科入学者選抜試験に係る個人別成績開示通知書を返信用封筒により郵送します。

注）「国立看護大学校研究課程部看護学研究科入学者選抜試験に係る個人別成績開示請求書」は、本学ホームページ（<http://www.ncn.ac.jp>）からダウンロードしてください（Adobe Reader7.0以上が必要です）。

15 第2次募集について

第1次募集で入学定員に達しない場合には、第2次募集（若干名）を行う場合があります。

第2次募集 試験日：2025年12月16日（火）

募集を行う際は、第1次募集の入学手続き期間終了後に、ホームページでお知らせいたします。

16 問い合わせ先

国立看護大学校事務部学務課（研究課程部入試担当）

〒204-8575 東京都清瀬市梅園1-2-1

電話 042-495-2211（代表） 【内線】5111

E-mail grad-nyushi@ncn.ac.jp

国立看護大学校研究課程部看護学研究科の概要

国立看護大学校研究課程部看護学研究科の概要

前期課程（修士課程相当）・後期課程（博士課程相当）

（注）2025年4月現在の情報です。一部変更する場合があります。

前期課程（修士課程相当）

1 教育理念

ヒューマンケアの精神、人間の健康に対する多面的な理解、科学的・論理的な思考力に立脚し、研究を通して看護実践の科学的根拠や効果的・効率的なあり方を探究するとともに、政策医療看護学の発展とそれを通じた国内外の人々の健康と生活の質向上に貢献できる人材を育成します。

2 教育目標

- （1）健康に関わる要因を多面的に捉えて分析・考察できる能力を育成します。
- （2）研究を通して看護実践の科学的根拠を見出し、効果的・効率的な看護方法を開発する能力を育成します。
- （3）看護実践の質向上やその効果的・効率的な展開、高度実践看護を推進する能力を育成します。
- （4）政策医療看護学の発展に向けて指導役割、教育役割を担う能力を育成します。

3 教育の特徴

- 国際看護学、看護教育学、看護情報・管理学（看護管理学、看護情報学、基礎・クリティカルケア看護学）、成人看護学、精神看護学、成育看護学（小児看護学、母性看護学・助産学）、長寿看護学（老年看護学、地域・在宅看護学）、感染管理看護学の8分野から1分野を選び、専門的な学修を深めるとともに、修士（看護学）の学位取得に向けて特別研究論文を作成します。
- 特別研究論文を作成して学内審査に合格した後、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構に申請し、論文の審査および試験に合格することにより、修士（看護学）の学位を取得できます。
- 専門分野の教員陣が、学生個々の関心や状況に応じて細やかに学修や研究を支援します。また、他分野の教員からも研究に対する指導や助言を得る機会が豊富にあり、それは、自己の研究や専門性に対する視野を広げたり客観視したりすることにつながります。
- 自己の関心や状況に応じて選択できる多様な共通科目が提供されています。また、共通科目の学修を通し、質の高い看護学研究を行う基盤となる知識・技術・態度を効率的に修得できます。
- 成人看護学、精神看護学、成育看護学、感染管理看護学分野は、各々、日本看護系大学協議会認定のがん看護、精神看護、小児看護、感染症看護専門看護師教育課程を開講しており、必要な科目を選択履修することで、がん看護・精神看護・小児看護・感染症看護専門看護師認定審査受験資格を得ることができます。

4 授業科目

前期課程（修士課程相当）

共通科目	政策医療看護学特論Ⅰ コンサルテーション ヘルスアセスメント特論	看護研究法 看護継続教育 生理学特論	看護理論 看護管理学	政策医療看護倫理 保健経済論 看護統計学 薬理学特論
専門科目	国際看護学	国際看護学特論 A・Ⅰ 国際看護学演習 A・Ⅱ	国際看護学特論 A・Ⅱ 国際看護学特別研究	国際看護学演習 A・Ⅰ
	看護教育学	看護教育学特論 A・Ⅰ 看護教育学演習 A・Ⅱ	看護教育学特論 A・Ⅱ 看護教育学特別研究	看護教育学演習 A・Ⅰ
	看護情報・管理学	看護情報・管理学特論 A・Ⅰ 看護情報・管理学演習 A・Ⅰ 看護情報・管理学特別研究	看護情報・管理学特論 A・Ⅱ 看護情報・管理学演習 A・Ⅱ	
	成人看護学	成人看護学特論 A・Ⅰ 成人看護学演習 A・Ⅱ がん看護学特論 A・Ⅲ がん看護学演習 A・Ⅲ がん看護学実習 A・Ⅱ 成人看護学特別研究	成人看護学特論 A・Ⅱ がん看護学特論 A・Ⅰ がん看護学演習 A・Ⅰ がん看護学演習 A・Ⅳ がん看護学実習 A・Ⅲ	成人看護学演習 A・Ⅰ がん看護学特論 A・Ⅱ がん看護学演習 A・Ⅱ がん看護学実習 A・Ⅰ がん看護学実習 A・Ⅳ
	精神看護学	精神看護学特論 A・Ⅰ 精神看護学特論 A・Ⅳ 精神看護学演習 A・Ⅲ 精神看護学実習 A・Ⅲ	精神看護学特論 A・Ⅱ 精神看護学演習 A・Ⅰ 精神看護学実習 A・Ⅰ 精神看護学実習 A・Ⅳ	精神看護学特論 A・Ⅲ 精神看護学演習 A・Ⅱ 精神看護学実習 A・Ⅱ 精神看護学特別研究
	成育看護学	成育看護学特論 A・Ⅰ 成育看護学演習 A・Ⅰ 成育看護学演習 A・Ⅳ 成育看護学実習 A・Ⅲ	成育看護学特論 A・Ⅱ 成育看護学演習 A・Ⅱ 成育看護学実習 A・Ⅰ 成育看護学特別研究	成育看護学特論 A・Ⅲ 成育看護学演習 A・Ⅲ 成育看護学実習 A・Ⅱ
	長寿看護学	長寿看護学特論 A・Ⅰ 長寿看護学演習 A・Ⅰ 長寿看護学特別研究	長寿看護学特論 A・Ⅱ 長寿看護学演習 A・Ⅱ	
	感染管理看護学	感染管理看護学特論 A・Ⅰ 感染管理看護学特論 A・Ⅲ 感染管理看護学演習 A・Ⅱ 微生物学特論 感染管理看護学実習 A・Ⅰ 感染管理看護学実習 A・Ⅲ	感染管理看護学特論 A・Ⅱ 感染管理看護学演習 A・Ⅰ 感染管理看護学特別研究 感染症学特論 感染症学演習 感染管理看護学実習 A・Ⅱ	

後期課程（博士課程相当）

1 教育理念

前期課程（修士課程相当）で培ったヒューマンケアの精神、人間の健康に対する多面的な理解、科学的・論理的思考力の発展を図り、独創的な研究を自立して遂行できる人材を育成します。

2 教育目標

- （1）看護実践の科学的根拠の発見、効果的・効率的な看護方法の開発、それらを通じた政策医療看護学の発展につながる独創的な研究を自立して遂行する能力を育成します。
- （2）社会的諸状況を踏まえながら日本国民および世界の人々に研究成果を還元し、その健康と生活の質向上に貢献する能力を育成します。

3 教育の特徴

- 政策的機能看護学（国際看護学、看護教育学、看護情報・管理学）、先駆的臨床看護学（成人看護学、精神看護学、成育看護学、長寿看護学、感染管理看護学）の2分野から1分野を選び、前期課程（修士課程相当）において取り組んだ研究を発展させることができます。
- 専門分野の学修を行い、前期課程（修士課程相当）で培った能力を高めるとともに、博士（看護学）の学位取得に向けて特別研究論文を作成します。
- 特別研究論文を作成して学内審査に合格した後、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構に申請し、論文の審査および試験に合格することにより、博士（看護学）の学位を取得できます。
- 専門分野の教員陣が、学生個々の関心や状況に応じて細やかに学修や研究を支援します。また、他分野の教員からも研究に対する指導や助言を得る機会が豊富にあり、それは、自己の研究や専門性に対する視野を広げたり客観視したりすることにつながります。

前期課程（修士）2年	後期課程（博士）3年
国際看護学 看護教育学 看護情報・管理学	政策的機能看護学
精神看護学 成人看護学 成育看護学 長寿看護学 感染管理看護学	先駆的臨床看護学

国立看護大学校研究課程部の概要

4 授業科目

後期課程（博士課程相当）

共通科目	政策医療看護学特論Ⅱ 質の看護学研究法 量の看護学研究法		
専門科目	政策の機能看護学	国際看護学特論 B	国際看護学演習 B
		看護教育学特論 B	看護教育学演習 B
		看護情報・管理学特論 B	看護情報・管理学演習 B
		政策の機能看護学特別研究	
	先駆の臨床看護学	成人看護学特論 B	成人看護学演習 B
		精神看護学特論 B	精神看護学演習 B
		成育看護学特論 B	成育看護学演習 B
		長寿看護学特論 B	長寿看護学演習 B
		感染管理看護学特論 B	感染管理看護学演習 B
		先駆の臨床看護学特別研究	

【前期課程・後期課程共通】 専門分野・担当教員・研究テーマの例

	専門分野	担当教員	研究テーマの例
政策的機能看護学	国際看護学 グローバルアジェンダの一つとして位置づけられる世界の健康課題および健康格差を、健康に影響を与える社会的状況や経済的要因をふまえて理解するとともに、看護職の知識や技術の向上によるグローバルな健康課題への積極的な貢献を探究する。 また、グローバルヘルスと国内外の医学・保健学、国の政策・最先端医療・技術に対する多面的な理解と科学的な研究理念を基盤として、看護学の役割と研究課題を探究する。	須藤 恭子 教授 宋 培培 教授	・看護職の役割及びコンピテンシーに関する国際比較研究 ・低中所得国の看護教育者の能力強化支援に関する研究 ・在留外国人の健康課題や健康格差とその改善への取り組みに関する研究 ・日本で働く日本国外で看護基礎教育課程を卒業した外国人看護職に関する研究 ・高齢化社会における生活習慣病および認知症施策の国際比較研究 ・高齢社会における健康・医療戦略の国際的な取り組みと課題、対策 ・ヘルスケア分野における ICT 融合によるイノベーションの研究
	看護教育学 看護職者の自律的な発達、それを支援する質の高い教育の実現に向け、看護学生や看護職者自身、あるいは、看護基礎教育や看護卒後教育、看護継続教育に焦点を当て、現状や課題を探究する。	亀岡 智美 教授	・看護師や看護学教員のキャリア発達、それを支援する教育に関する研究 ・看護師や看護学教員の能力やその向上に関する研究 ・看護実践の質や研究成果活用に関する研究 ・新人看護師の職場適応や能力向上に関する研究 ・夜勤時の多重課題対策や新人看護師支援に関する研究 ・看護職者が職業活動の改善に活用できる自己評価尺度の開発 ・看護学生の教育に関する研究
	看護情報・管理学 ・看護管理学 ・看護情報学 ・基礎・クリティカルケア看護学 看護の機能や役割を効果的・効率的に発揮していくために、組織管理の基本概念を学習し、対象の理解、看護業務の把握、人材の育成と活用、情報管理などの視点から看護の質向上に寄与する方策を探究する。	看護管理学、看護情報学 小澤 三枝子 教授 柏木 公一 准教授 水野 正之 准教授 基礎・クリティカルケア看護学 矢富 有見子 教授 森下 純子 准教授	・看護師の自己効力感や組織コミットメント、人材育成と活用、業務分析、アウトカム評価など、看護管理に関するテーマについて、量的アプローチを用いた研究 ・クリティカルケア領域における看護の機能・役割、患者・家族の経験に関する研究 ・看護情報の活用実態や情報の構造化についての研究、また、これと関連した看護情報システムに関する研究

	専門分野	担当教員	研究テーマの例
先 駆 的 臨 床 看 護 学	成人看護学 疾病を持つ患者と家族の反応・看護ニーズの理解を基盤に、がんや循環器病をはじめとした成人患者のセルフケア能力と、生活の質の向上を図る実践的看護法を探究する。	飯野 京子 教授 杉山 文乃 教授 遠藤 晶子 准教授 藤澤 雄太 講師 梅田 亜矢 講師 清水 陽一 講師	・成人患者、特に循環器病とそのリスクファクター（糖尿病・高血圧・肥満・脂質異常症など）、慢性病の管理を必要とする患者の看護に関する量的・質的研究 ・クリティカルケア、手術を受ける患者の諸課題に関する研究 ・がん治療を受ける患者（手術、化学療法、放射線療法、造血幹細胞移植など）や緩和ケアに関する量的・質的研究
	精神看護学 精神障害者の回復と生活の質の向上または心の健康課題に直面している人々のメンタルヘルスを実現するために、対象者のニーズや希望、社会構造・環境、精神医療政策・医療支援システム、看護倫理など多面的な観点から、看護上の課題と役割について探究する。	森 真喜子 教授 松浦 佳代 講師 萱間 真美 大学校長	・精神障害者のリカバリー、エンパワメント、レジリエンスに関する研究 ・精神障害者の意思決定支援、自立支援、社会参加に関する研究 ・精神医療に関連のある現象の解明、実践知の理論化、および看護援助技法の開発に関する研究 ・精神障害者の家族に関連のある現象の解明、実践知の理論化、および専門職としての支援法の開発に関する研究 ・ストレスマネジメント、地域住民の心の健康づくり、自殺予防、対人援助職としての看護師自身の心のケア等、メンタルヘルスに関する研究
	成育看護学 子どもと家族を理解するための諸理論を学修し、現代社会における妊娠・出産、胎児期から思春期までの母子に関する保健・医療・看護の課題について考察し、母子とその家族を支える看護の研究課題と実践的看護を探究する。	小児看護学 来生 奈巳子 教授 遠藤 数江 准教授 野村 智実 講師 母性看護学・助産学 池田 真弓 教授 日置 智華子 准教授	・小児看護倫理、子どもの事故予防、子ども虐待に関する研究 ・子どもの生活習慣、食習慣、健康増進に関する研究 ・産科医療機関における子ども虐待発生予防、若年親の子育て、女性と家族に関連する現象、子育て支援、M-GTA による研究 ・開発途上国の母子保健と思春期保健、思春期教育方法の開発、母子の愛着形成と促進、周産期の用具と教材の開発 ・更年期女性の健康、ヨーガプログラム開発、妊娠期のメンタルヘルス、ホリスティックアプローチ、オプティマルヘルス

専門分野		担当教員	研究テーマの例
先 駆 的 臨 床 看 護 学	長寿看護学 ・ 老年看護学 ・ 地域・在宅看護学 健康長寿社会を目指し、高齢者及び地域で生活する人々の自立促進や自立支援、健康づくりに関する長寿看護学の役割と課題を考察し、社会構造、家族・地域、在宅介護支援などに関する研究課題と実践的看護を探究する。	老年看護学 綿貫 成明 教授 野中 千春 准教授 古川 彩子 講師 地域・在宅看護学 藤田 淳子 教授	・ 高齢者の健康・生活機能・セルフケア能力の向上に関する研究 ・ 老年症候群の発現予防や緩和を目指した先駆的な看護に関する研究 ・ 高齢者のもつ認知機能障害、皮膚・排泄機能障害、身体活動機能障害、疼痛などに対する看護の機能と特徴を明らかにする研究 ・ 在宅で生活する療養者および家族の看護に関する研究 ・ 入退院支援や外来看護における在宅療養支援に関する研究 ・ 多職種・多施設連携、地域ケアシステムに関する研究 ・ 訪問看護の管理・運営に関する研究
	感染管理看護学 病院、地域、国際医療協力などの場における日常的な感染管理活動、感染症多発時や災害発生時における高度な感染管理、感染症看護実践に必要な知識と技術を学修する。	西岡 みどり 教授 森 那美子 准教授 網中 眞由美 准教授	・ 感染管理活動の効果を検証する研究 ・ 医療関連感染サーベイランスデータを活用した研究 ・ 費用対効果分析等による感染管理活動および感染症看護の効率性評価に関する研究 ・ 感染症患者の看護や個人に対する感染防止のケアに関する研究 ・ アウトブレイク調査に基づく要因探索研究 ・ 医療関連感染で問題となる微生物の制御に関する実験的研究